

令和7年2月13日

11時 33分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 22 番

氏名 牛尾昭

答弁を求めるもの

市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、市長の4期目に臨む姿勢について

(1) 出馬について

- ① 久保田市長はちょうど4年前の6月定例会議において、進退を問う私の質問に対して、力強く出馬表明された。今回の施政方針や予算規模を読み込むと、過去3回とは比較にならない、並々ならぬ続投への意欲を感じる。市民の皆さま方へ、声高らかに出馬表明されるよう期待するが、ご所見を伺う。

(2) 財政状況の認識について

- ① 何をするにも、一番大事なものは、財政力である。平成19年に実質公債費率は、25.1%を超え、全国ワースト5位となり、第二の夕張市になるのではと騒がれたが、市・職員と議会が一体となり、血の滲むような行財政改革をやり遂げた。久保田市長就任直前の、実質公債費比率は14.5%だったが、現在は10.5%。将来負担比率は118.8%であったのが6.3%の一桁になった。基金残高は、平成25年末が115億8千万円であったのに対して、今年度末見込が159億2千万円で、約43億円の増である。この間、コロナ対策や水産業・商工業振興、全国市長会役員など様々な事業をやり遂げられての基金増である。この間を振り返られての、浜田市のトップとしての認識を問う。

2、市長の商店街振興への意気込みについて

- ① 昨年末、国政報告会で、紺屋町商店街理事長から、「街路灯の新規設置や撤去費用が、体力がなくできない。何とかしてほしい」との質問が高見衆議院議員に対して行われた。慌てて、私は、その問題は市の方でと言い、止めに入った。昨今、街路灯老朽化で事故が起きており、急遽、問題箇所を点検してもらったが、大事なかった。ただ、商店街は、加盟店の減少や高齢化で体力を落としている。一方で、店舗兼住宅の多い紺屋町は、それなりの固定資産税を今日まで負担している。この様な環境の中で、紺屋町商店街の景観保全や通行人の安全・安心確保のために、現状で対応できるような対策を問う。

3、市長の水産業振興への意気込みについて

JF しまねの初市、先般の全員協議会においても報告があったが、(株)三陽の誘致が決まり、新聞報道をみた多くの市民からお祝いの言葉を頂いた。市長の平素からのトップセールスに敬意を表す次第である。水産浜田の再生に向けた、水産業振興について以下質問する。

- ① マルハニチロとの養殖の共同研究事業の成果について問う。
- ② 冬場に時化が続き、お魚市場などに鮮魚のない時期が多い。宇都宮市水道局が直営で始めたイチゴサーモン養殖が脚光を浴びている。小規模養殖の検討を始めてはどうかと思うが市長の考えを問う。

4、市長の農業振興への意気込みについて

- ① 先ごろ放映された「民教協スペシャル」の番組によると、コメ農家一経営体当たりの年間収入から経費を差し引くと、残る所得は1万円。ここ2年間は、労働時間で割ると、時給10円になるそうである。これは、2022年度の収入は補助金を入れて378万円。肥料代や光熱代などの経費を除けば、手元に残る所得は1万円、これを時間で割ると時間給10円である。稲作農家は高齢化が顕著で、20年後に今の60代が引退すれば、米作農家は1割台まで激減するそうである。現在、同僚議員と農家の聞き取り調査をしているが、市の状況も相当深刻である。もし米作農家が激減すれば、5万市民の主食米が危うくなり、市民の生命・財産を守るべき市役所の役目が果たせなくなる。振り返って施政方針には、このような現状に対する危機感が希薄である。改めて市長の農業振興への意気込みを問う。

12
発言No. _____

受付No. 12

令和7年2月14日

10時18分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 16 番

氏名 芦谷 英夫

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、浜田市版地方創生の推進について

- ①施政方針で述べている令和5年度からの若者支援ファンド、これまでの地域おこし協力隊制度などにより、具体的にどのような人口増につながる成果が上がっているのか。
- ②島根県は人口減少が他県よりも大きく、特に社会減が大きく、お隣広島県も社会減が続いているが、この状況に対して地方創生、人口増加施策についてどのように見ているのか。

2、国際交流の推進、外国人観光客の増加策について

- ① 海外との友好都市協定を結んでいる都市との交流は、これまでどう進めてきて今後どう進めるのか。
- ② 外国人観光入込客増に向け、日本海の幸、食、美肌温泉、石見神楽、自然と歴史などそれを磨き観光商品とすることで呼び込めるが、このことについて具体的にどう取り組んできて、今後どう取り組むのか。
- ③市民レベルや民間の取り組みが重要となるが、国際交流協会、日韓親善協会、日中友好協会などの団体の組織化、活性化を進める必要があるが、それら交流団体組織の活動の状況はどうなっていて今後の進め方はどうするのか。

3、広域行政の推進について

- ①広島広域都市圏との交流が進められているが、これにより浜田市にとってどのような資源を売り出し、具体的にどのような交流の実を上げる考えなのか。
- ②高速道路、港湾、空港などの利活用も含め、県西部に成果がもたらされる事業化が必要であり、山口県北東部との具体的な連携交流を含めどのように考えているのか。

4、教育行政の推進について

- ① 一つの指標としての全国学力・学習状況調査結果によると、小学校、中学校とも全国、島根県と比べて浜田市は低いが、これをどのように評価し、教育のあり方をどう改革していくのか。
- ② 小中高生の自殺児童生徒が527人で過去最高とのことであるが、生きる力の育成、一人ひとりを大切にする教育の観点から、どのように教育の改革を進めていくのか、具体的な方針はどうか。
- ③ 教員の不足、教職員の早期退職、時間外労働の多さ、仕事を家庭に持ち帰るなどが問題となっているが、浜田市の場合、現状はどのようになっているか、それに対する具体的な対策をどのように立てているのか。

5、歴史文化行政の推進について

- ① 浜田市文化財保存活用地域計画では、石見国府については石見における中心地であった、と触れているが、それを調査する記述がない。もっと浜田の歴史の深さを認識し、石見国府の場所を特定するなどの調査を進めるなど、市の能動的な方針が必要ではないか。
- ② 計画では、文化財把握が不十分、台帳の不備と統一様式での台帳作成、文化財市民調査員の確保、市民からの情報提供、相談窓口、専門家への協力依頼など多くの課題が掲げられているが、具体的にそのための体制をどうつくるのか。
- ③ 北前船寄港地外ノ浦について、さらに構成文化財を追加し付加価値をつける、ストーリー性を高めることが必要であり、郷土史家が指摘している日和山方角石の対岸にある、燈明堂跡について調査する考えはないか。
- ④ 石見神楽の調査研究について、文化財指定に向けた調査、歴史的な関係資料の調査、石見神楽の歴史整理とされているが、その体制はどのようにし、また専門職の参画を求めるのか。

発言No.

14

受付No.

9

令和 7 年 2 月 14 日
9 時 54 分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 7 番

氏名 村武 まゆみ

答弁を求める者

(○をつける)

員長

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員

発言項目及び要旨

1. こどもまんなか社会について

(1) 未就学児の発達について

- ① 発達等に支援が必要な子どもの早期発見、早期支援について 9 月定例会議で伺った。浜田市では保健・医療・福祉・教育機関が連携して巡回相談を実施し、支援体制がしっかりと整っているということである。しかし昨年 12 月に議会総務文教委員会と福祉環境委員会の合同で浜田市保育連盟との意見交換会があった際に、巡回相談が充実していると感じている連盟会員が約 55%にとどまるというお話を伺った。この結果をどう捉えているか伺う。
- ② 9 月定例会議で 5 歳児健診についても質問をしている。国が動き出しているので設置に向けて検討を始めようとしているとの答弁があった。その後こども家庭庁の R7 年度予算に向けて 5 歳児健診の実施についてより具体的に出されている。浜田市では 5 歳児健診実施に向けて今後どのように進めていくのか伺う。

(2) 医療的ケア児の支援について

- ① 令和 3 年、医療的ケア児の支援に関する法律「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行された。医療的ケア児とその家族の生活は「社会全体で支援しなければならない」とされている。浜田市の医療的ケア児支援の現状について伺う。

(3) こども誰でも通園制度について

- ① 国は R6 年 6 月にこども誰でも通園制度を創設し、R6 年 12 月時点で 113 自治体、約 800 の事業所が試行的に実施した。そして R7 年度は自治体の判断において実施、R8 年度は全自治体での実施が決まっている。浜田市において、こども誰でも通園制度についてどのように進めていくのか伺う。

(4) 不登校児童について

- ① R6年度から始まった校内フリースクールの現状について伺う。
- ② 昨年の6月定例会議でも不登校児童について質問をしており、その時には不登校児童生徒で放課後等デイサービスを利用している子どもについては質問をしなかった。国においてR6年度から個別加算がされることになり、浜田市でも放課後等デイサービスでも不登校児童の受け入れを実施している。現在5事業所において12名の児童生徒が放課後等デイサービスを利用されているとのことだが、利用時の活動内容について伺う。
- ③ 学校に行けない子どもを地域と連携して支援することが必要であると考えるが、浜田市において、地域と連携しての支援体制について伺う。
- ④ 学校に行けない子どもはもちろんだが、保護者も日々悩みを抱えながら暮らしている。保護者への支援はどのようなになっているか伺う。

(5) 子どもの権利について

- ① 「こども計画」が今年度中に完成する。その中にも盛り込まれているが、子どもの権利について浜田市においては、まずは市職員が学ぶ必要があるということで研修をしていくということを12月定例会議で伺った。R6年度から基本的なことから研修が始まっていると聞いたが、内容について伺う。

2. 女性が生きやすい社会について

- ① 女性の健康について、月経、妊娠、出産、更年期など女性は、ライフステージごとに様々な心身の変化を経験する。浜田市で女性向けの健康支援の取組みについて伺う。
- ② 働きやすい職場づくりも必要である。浜田市ではR3年に浜田市女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画を策定している。計画がどのように進んでいるか伺う。